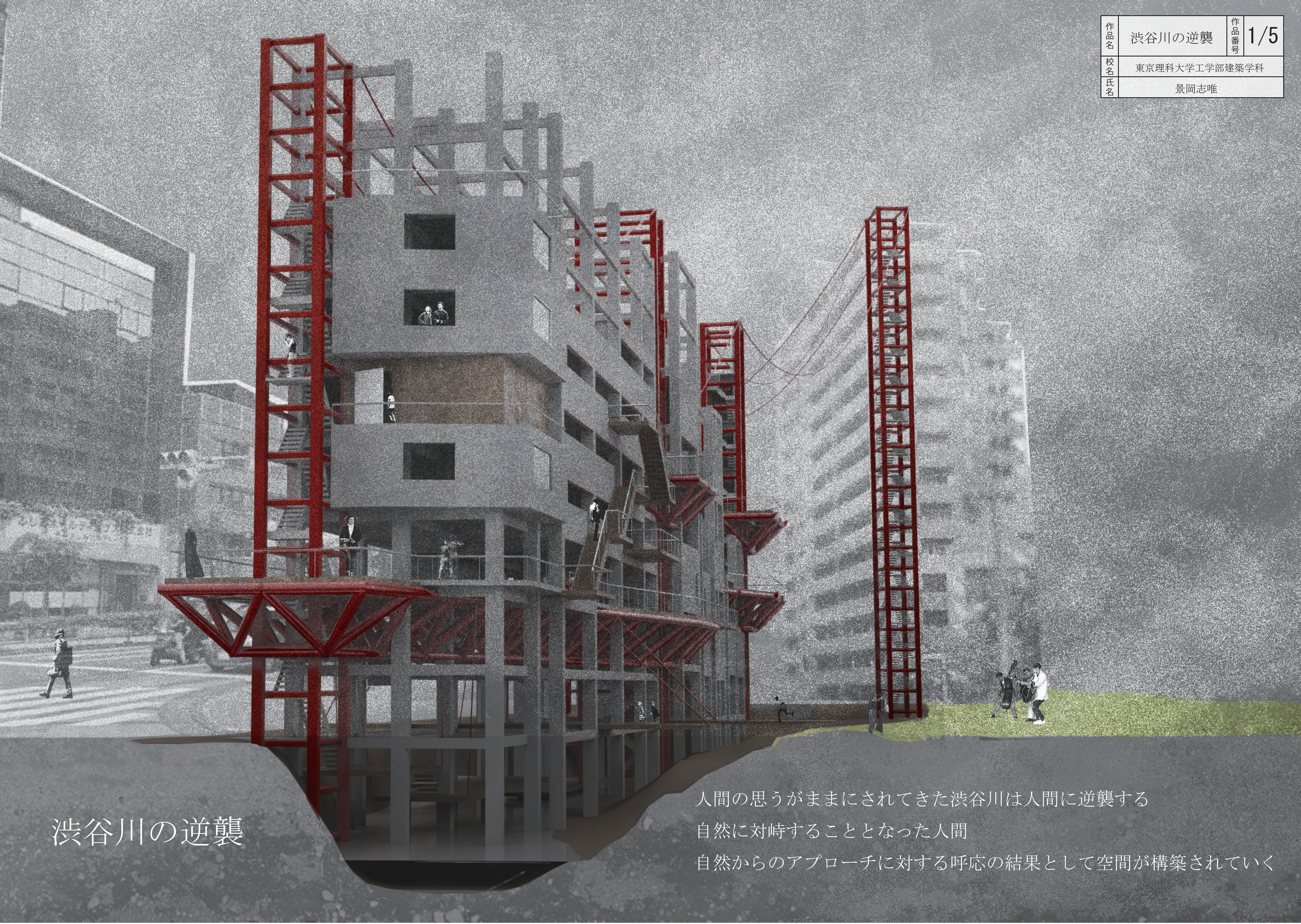
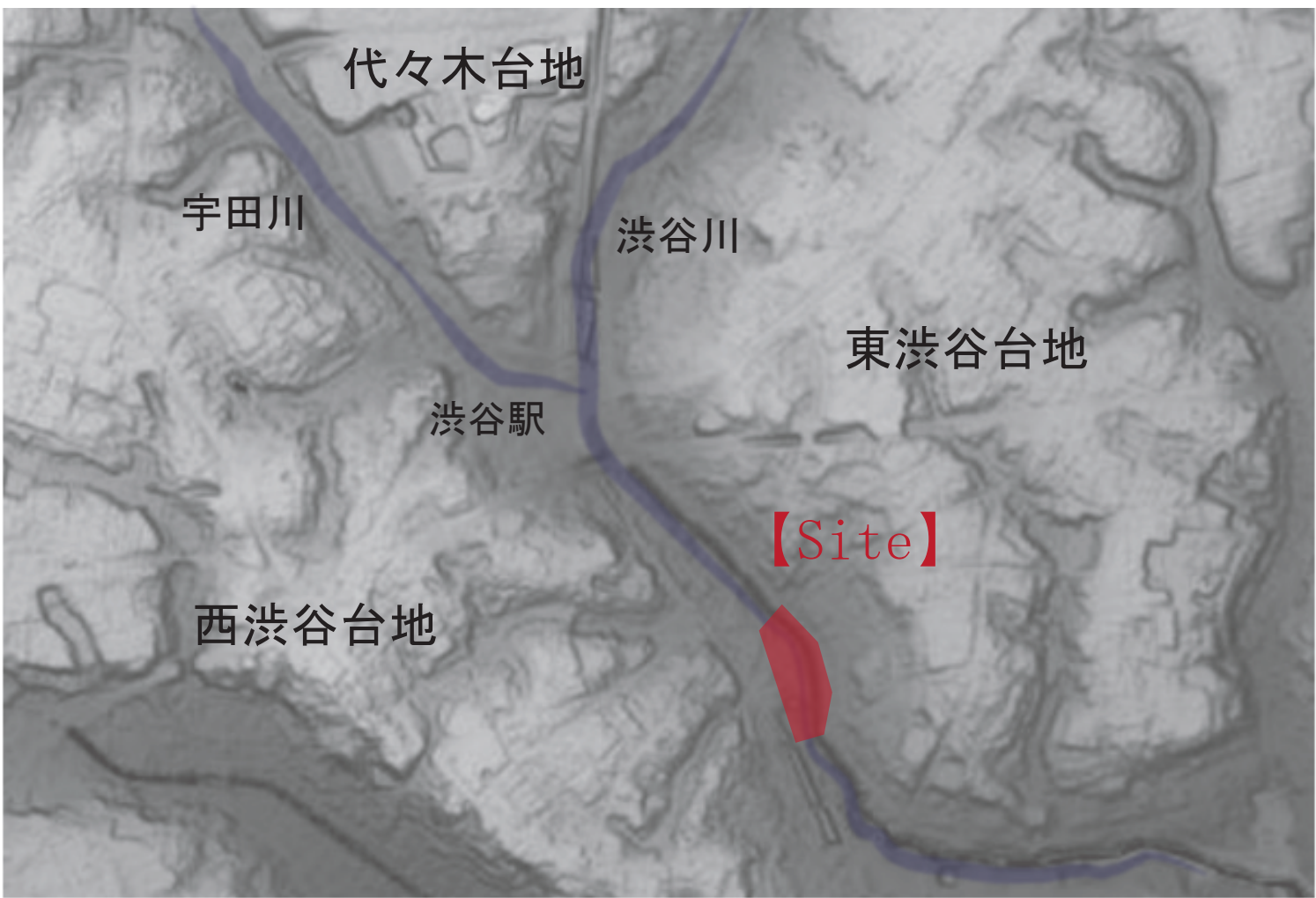
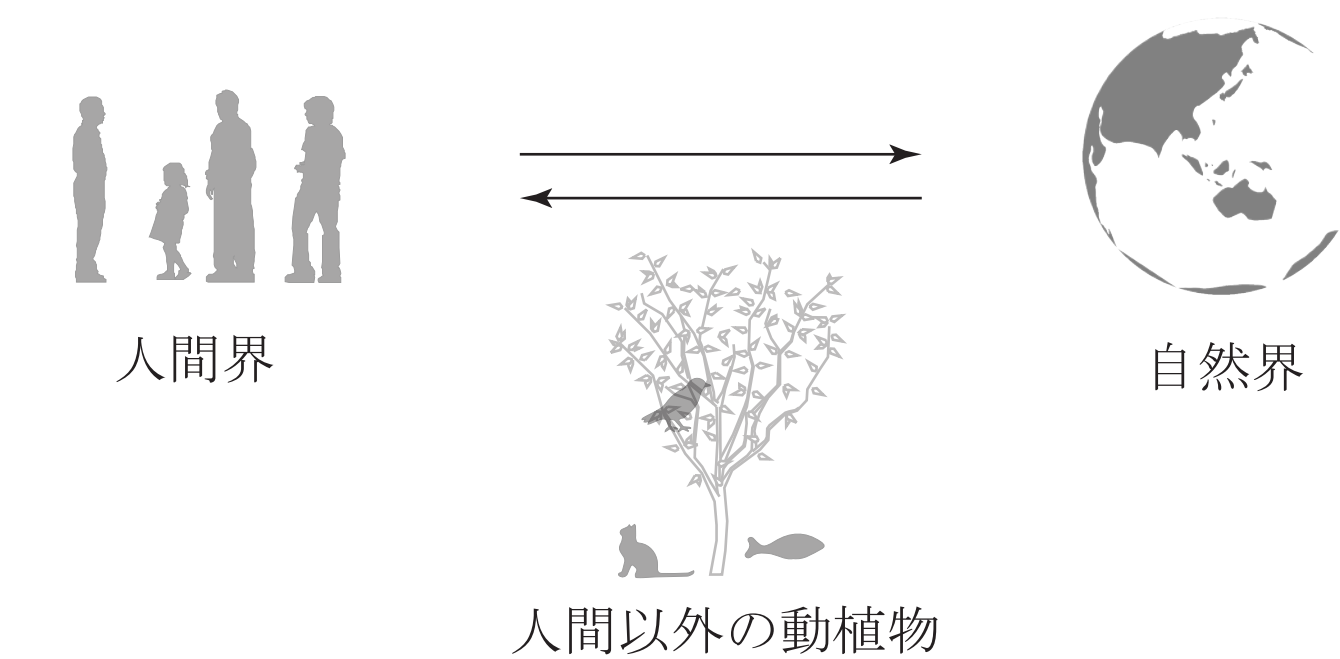




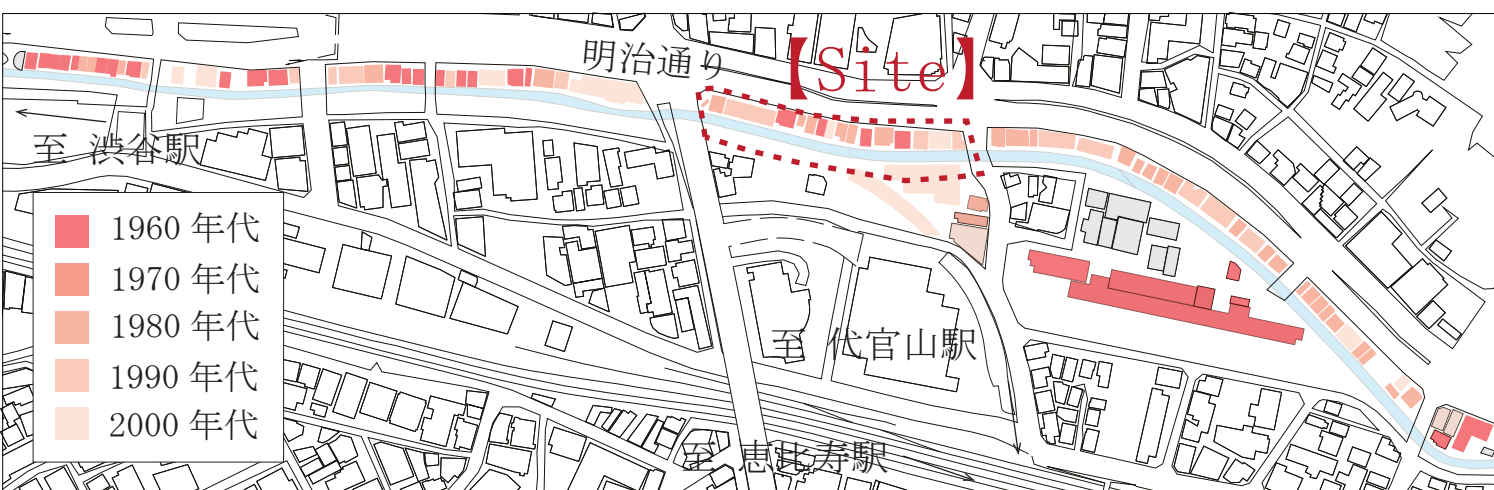
渋谷川の逆襲

人間の思うがままにされてきた渋谷川は人間に逆襲する
自然に対峙することとなった人間
自然からのアプローチに対する呼応の結果として空間が構築されていく

人間はこの自然によって出来た世界に仮住まいさせて頂いている
草木や動物は少なからずそれを自覚している



築 40～50 年のビルが多く存在している＝更新期が近づいている

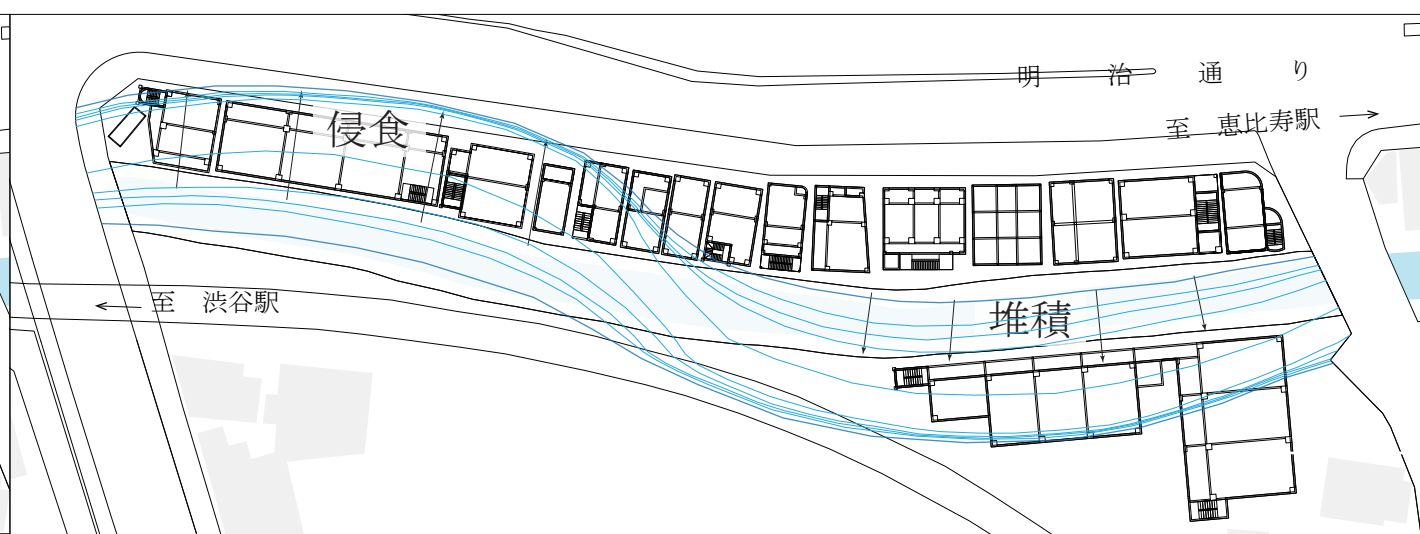
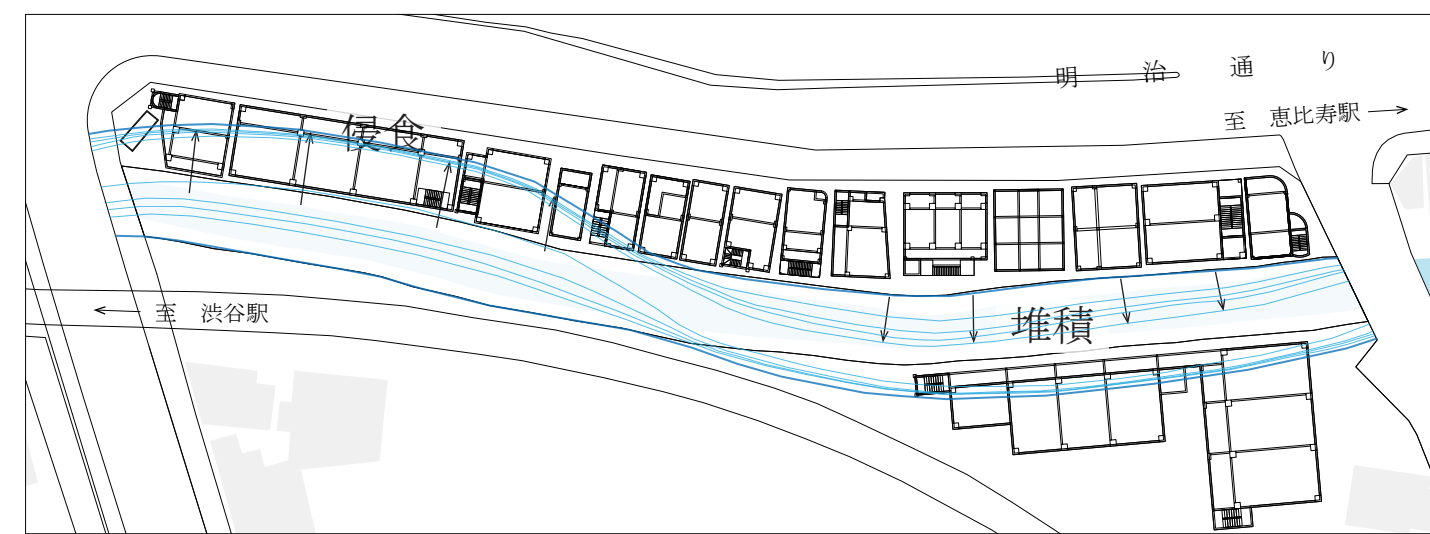
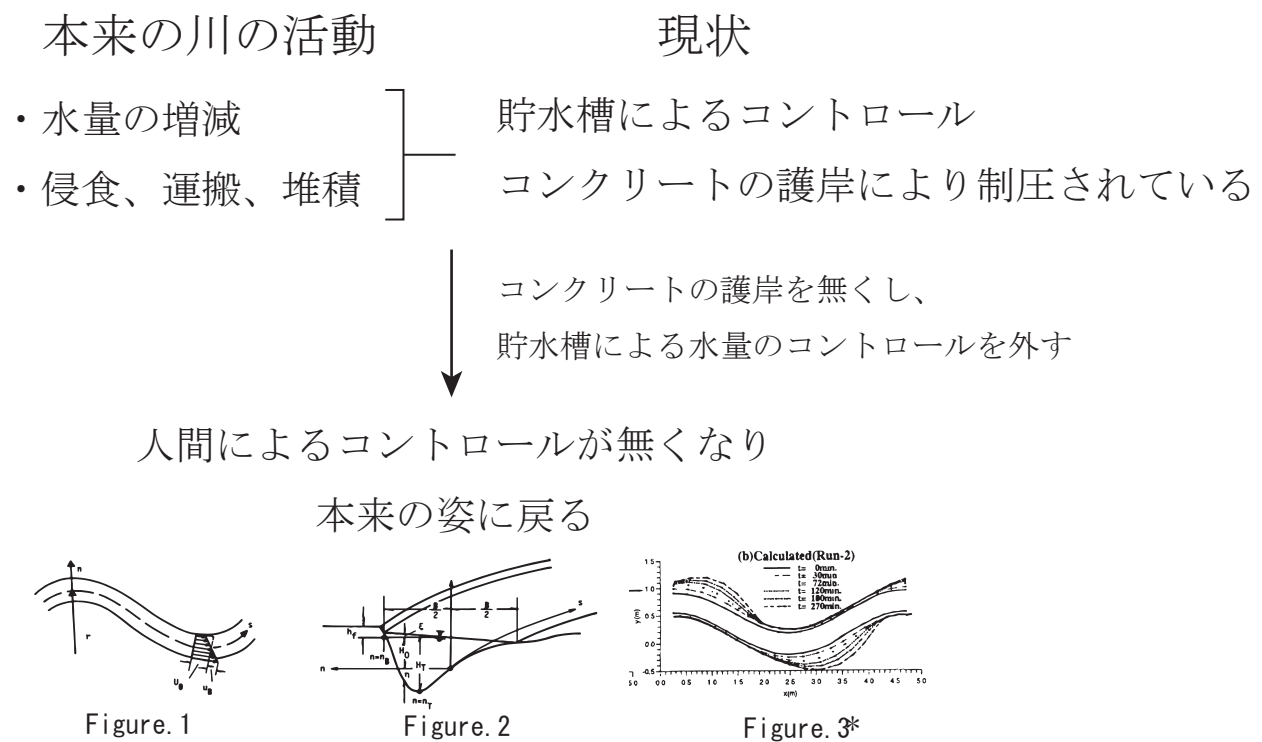
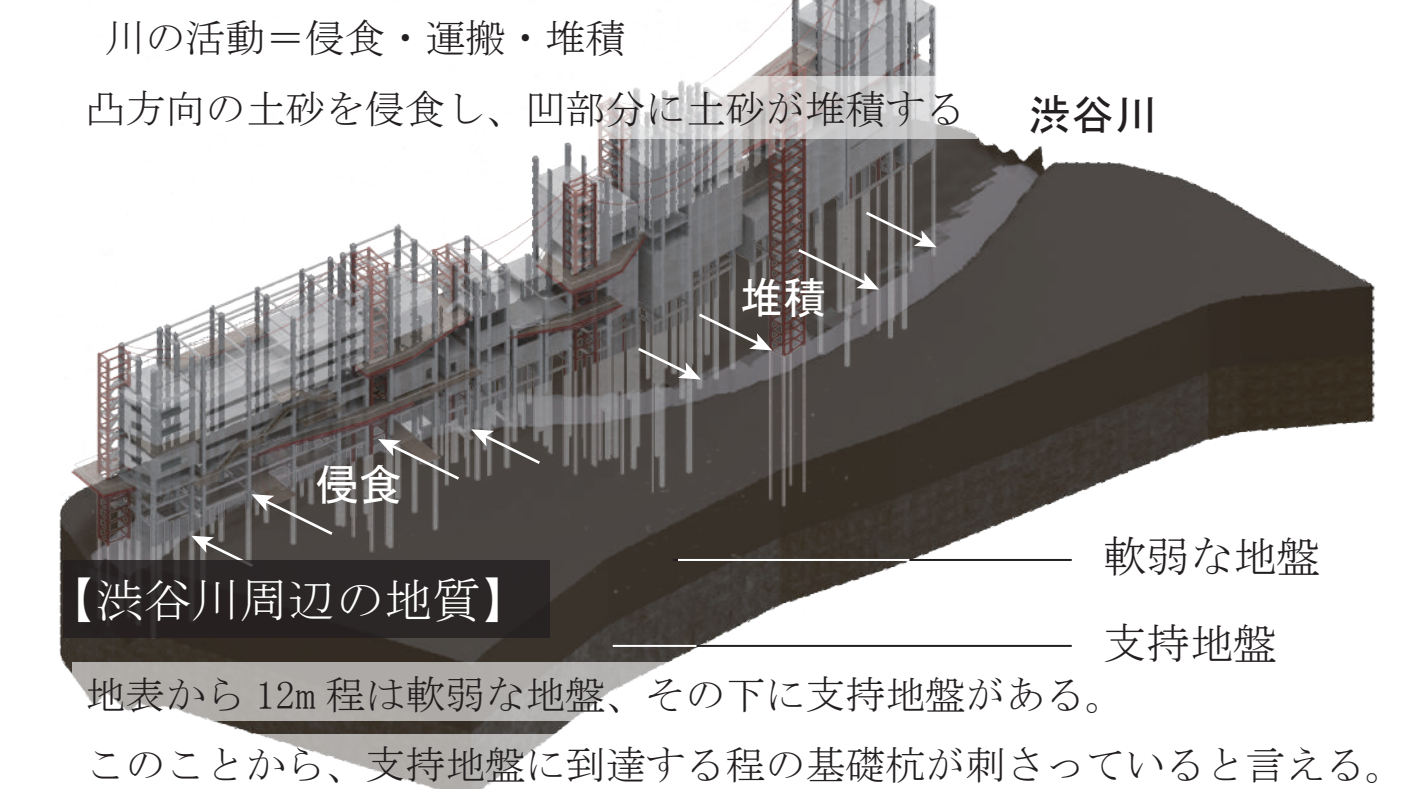
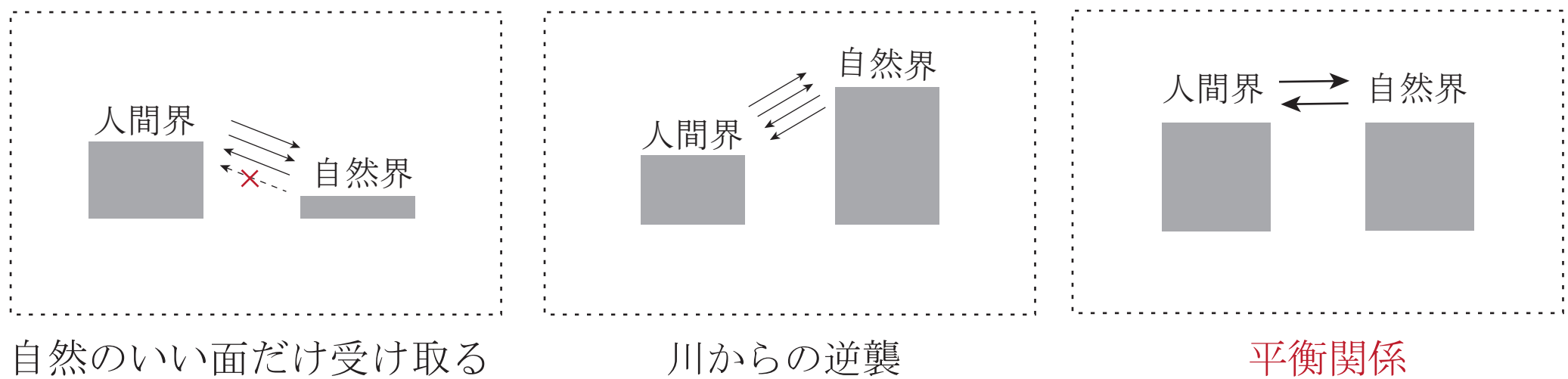


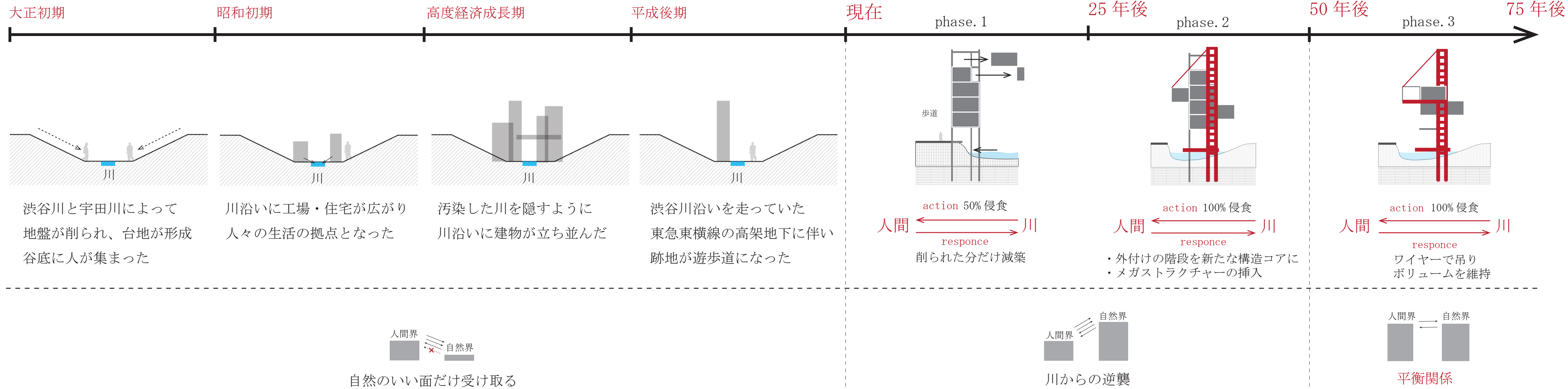
古くから渋谷というまちを形成し、都市活動を支えてきた渋谷川

人間の活動を受け止めさせられてきた渋谷川は、川の活動を受け止めさせることで逆襲をする。

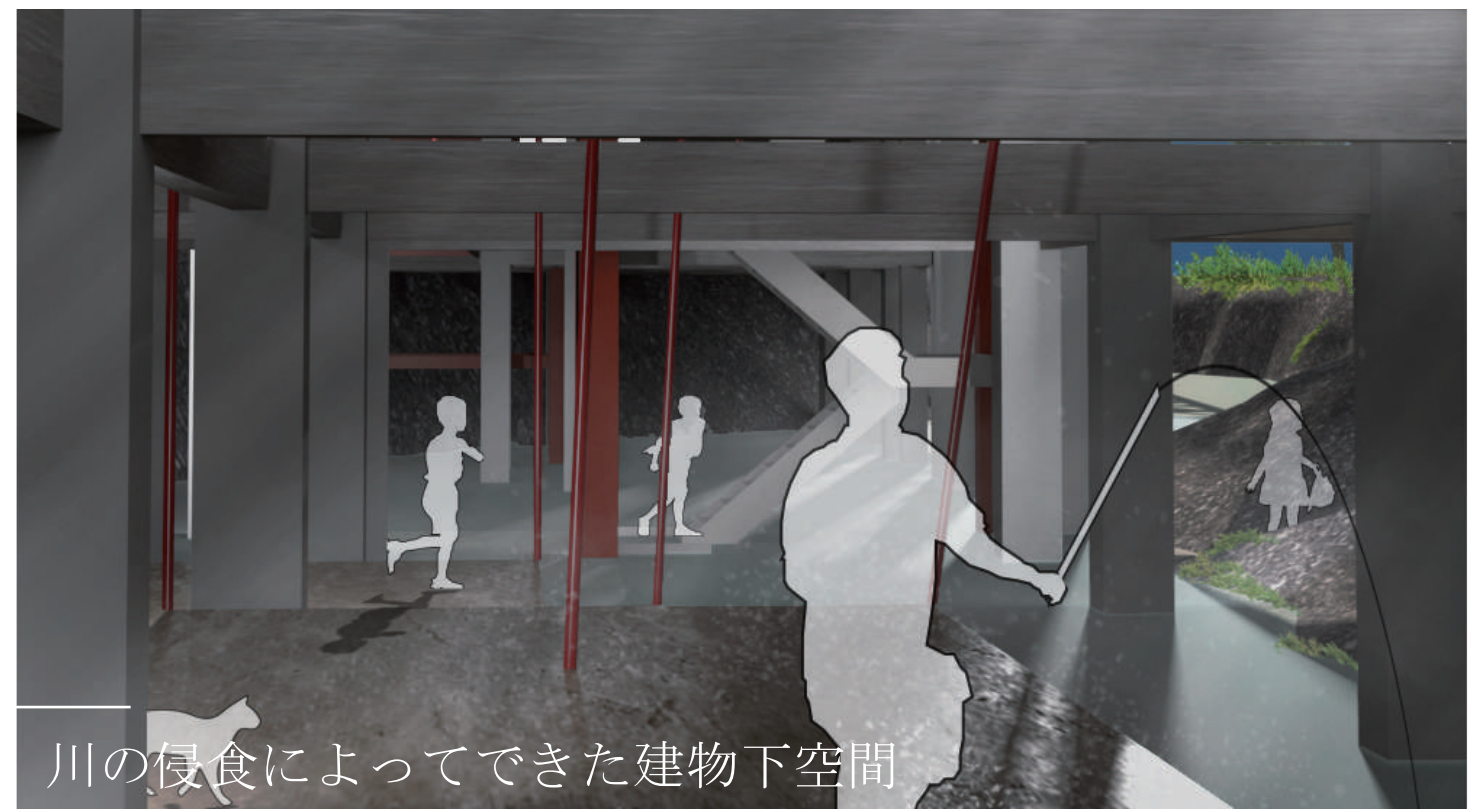
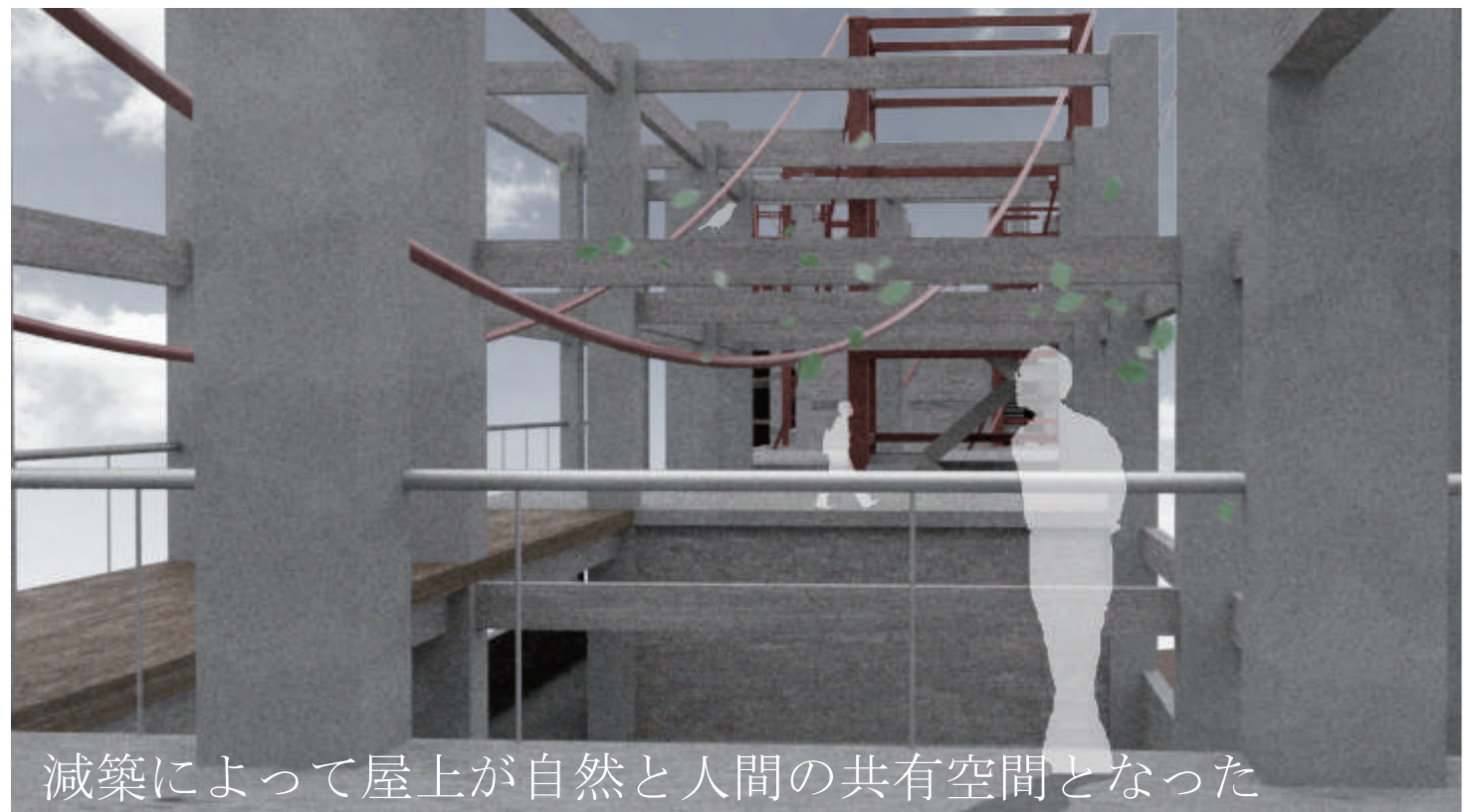
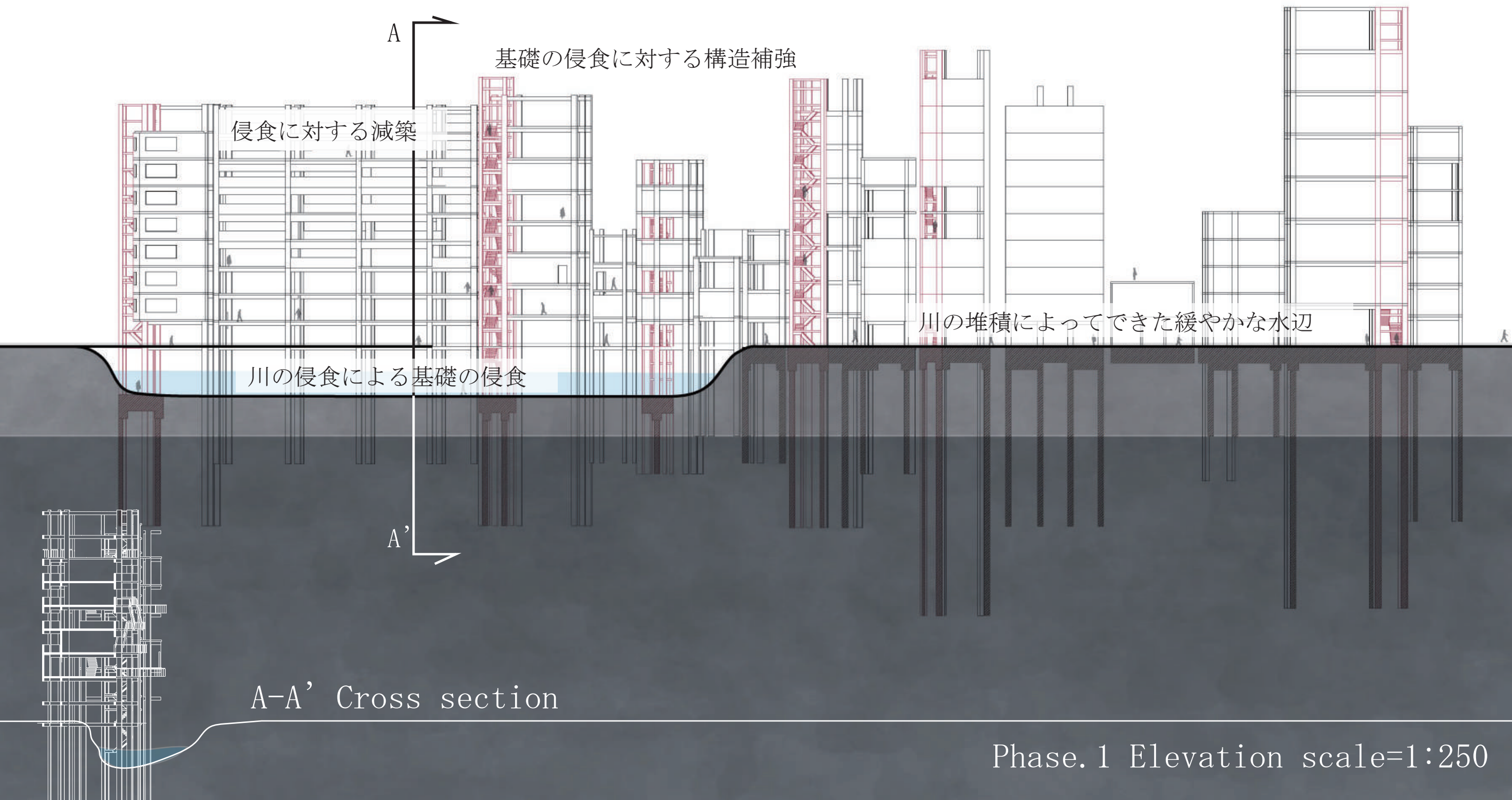
人間は自然と対峙し、自然に対する畏怖の念と畏敬の念を感じ、川と向き合うこととなる。

川と人間の呼応の結果として空間が構築されていき、人間と自然が互いに等しい力で及ぼしあう平衡関係を目指す

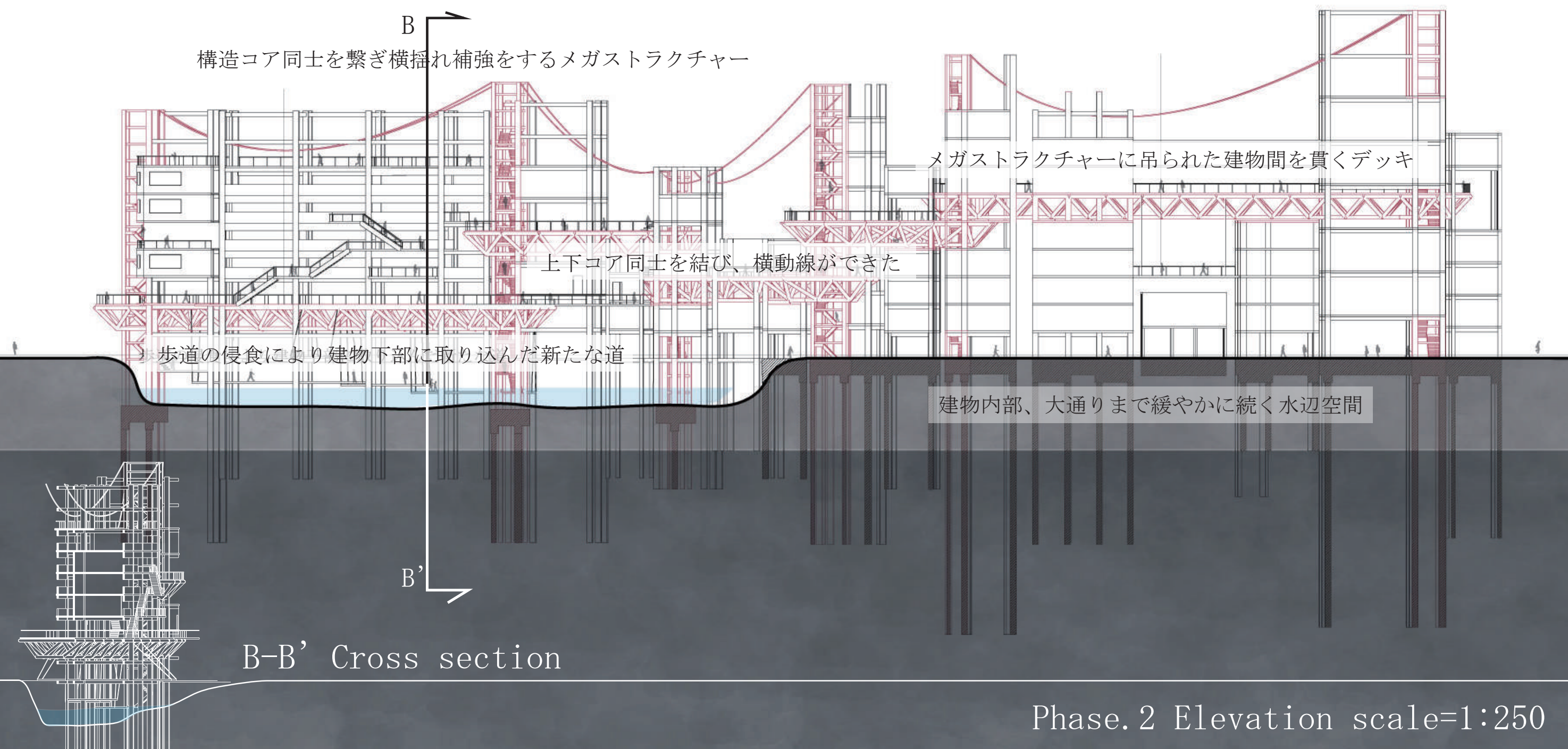




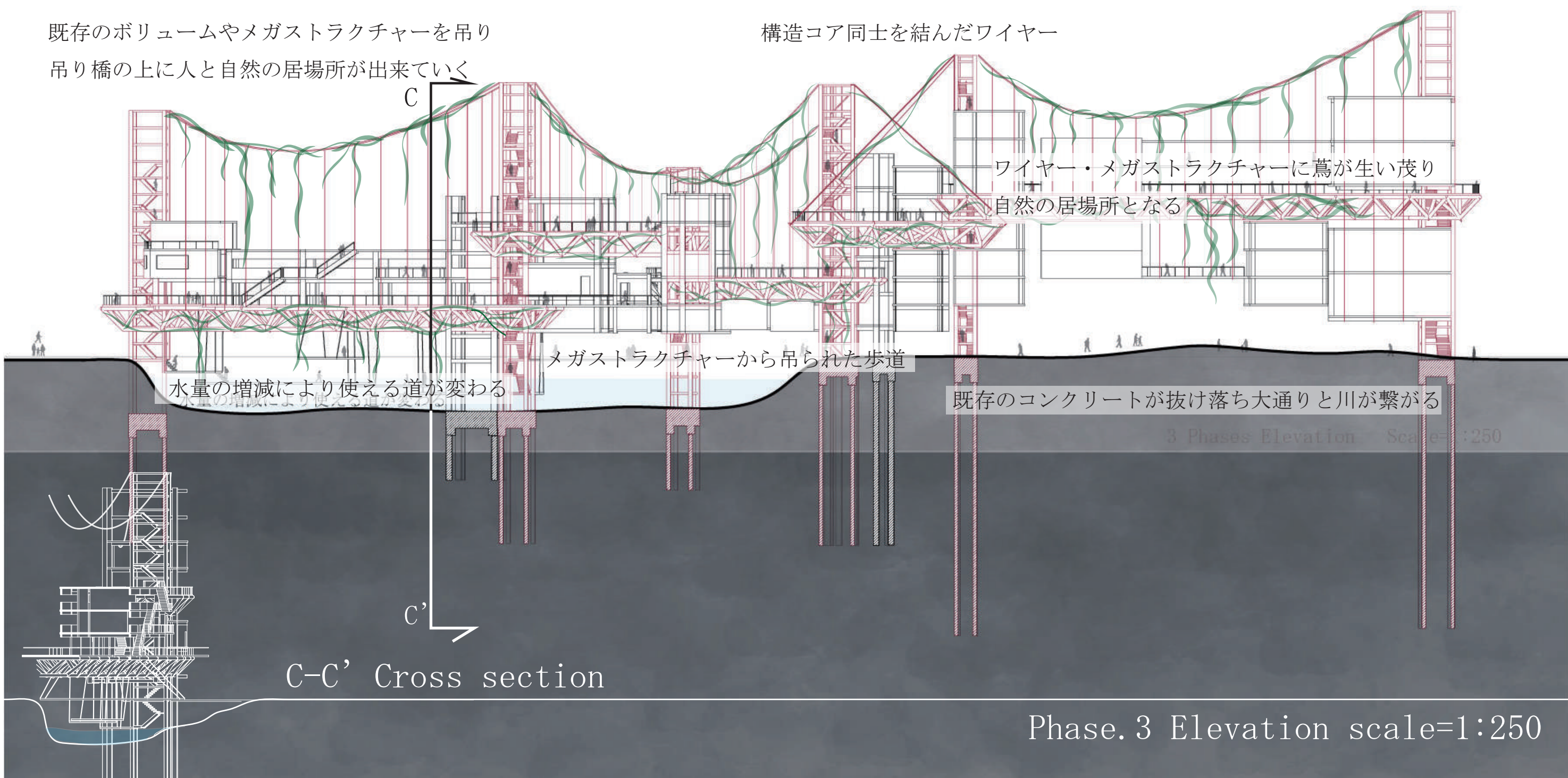
【Phase. 1】50% 侵食と構造補強



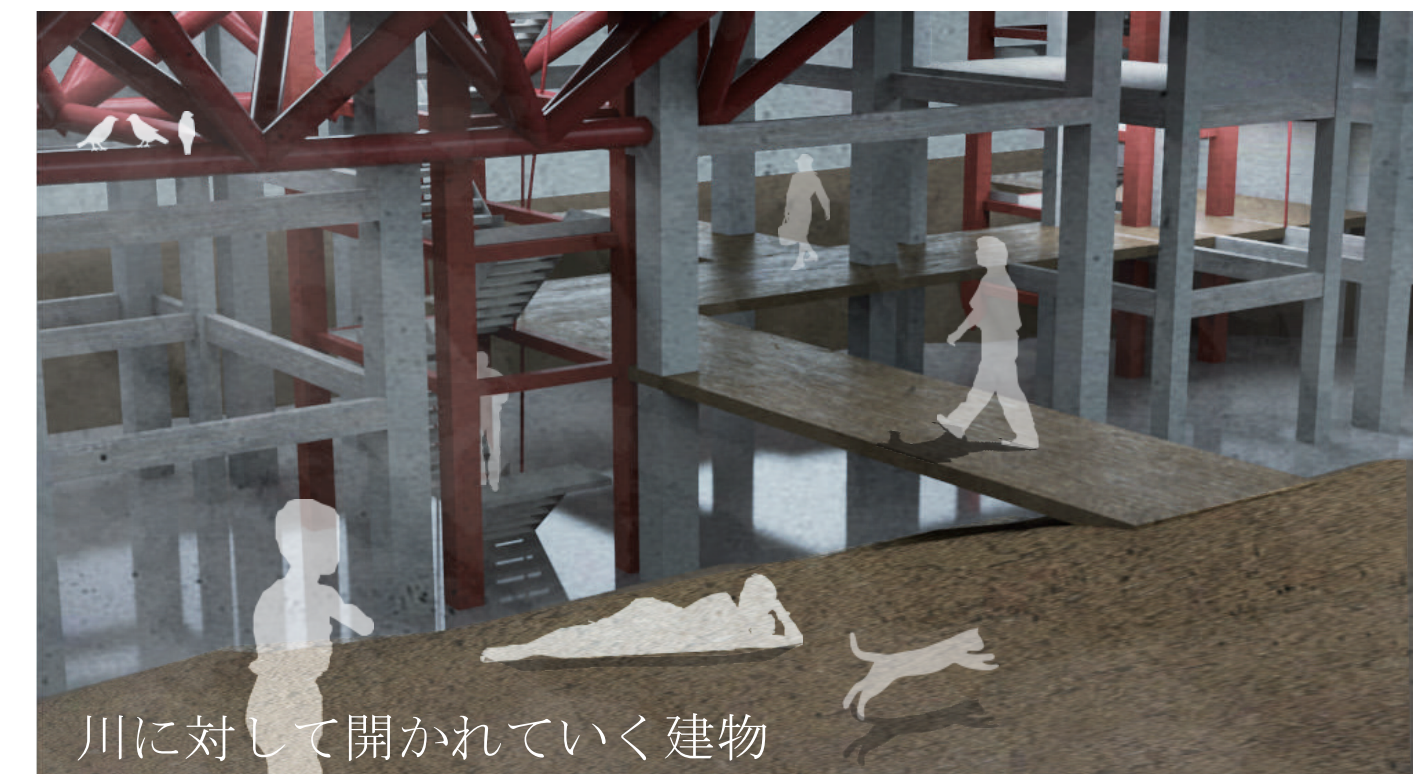
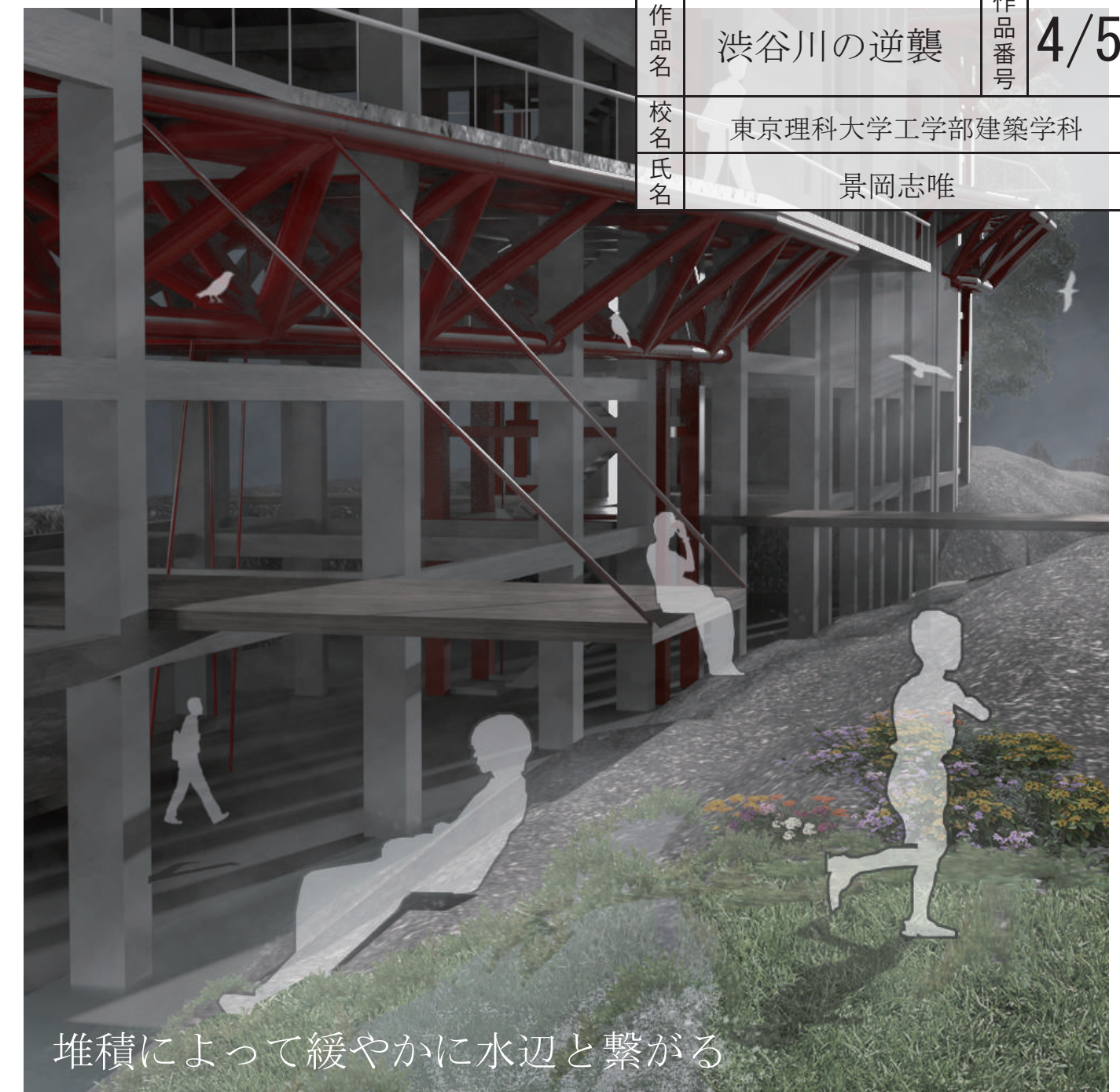
【Phase. 1】 100% 侵食と構造補強



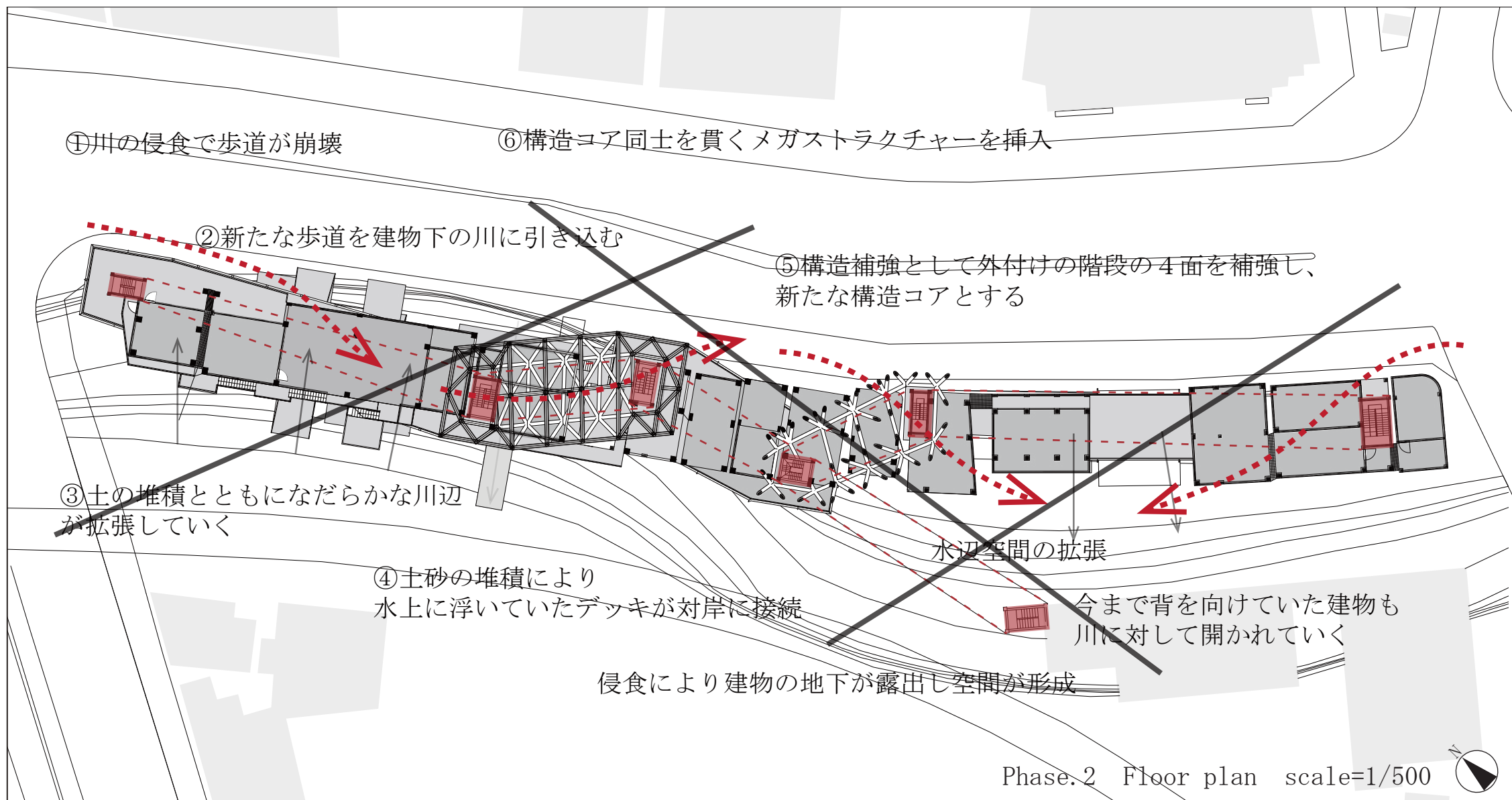
【Phase. 1】 コンクリートの腐食・抜け落ちの進行



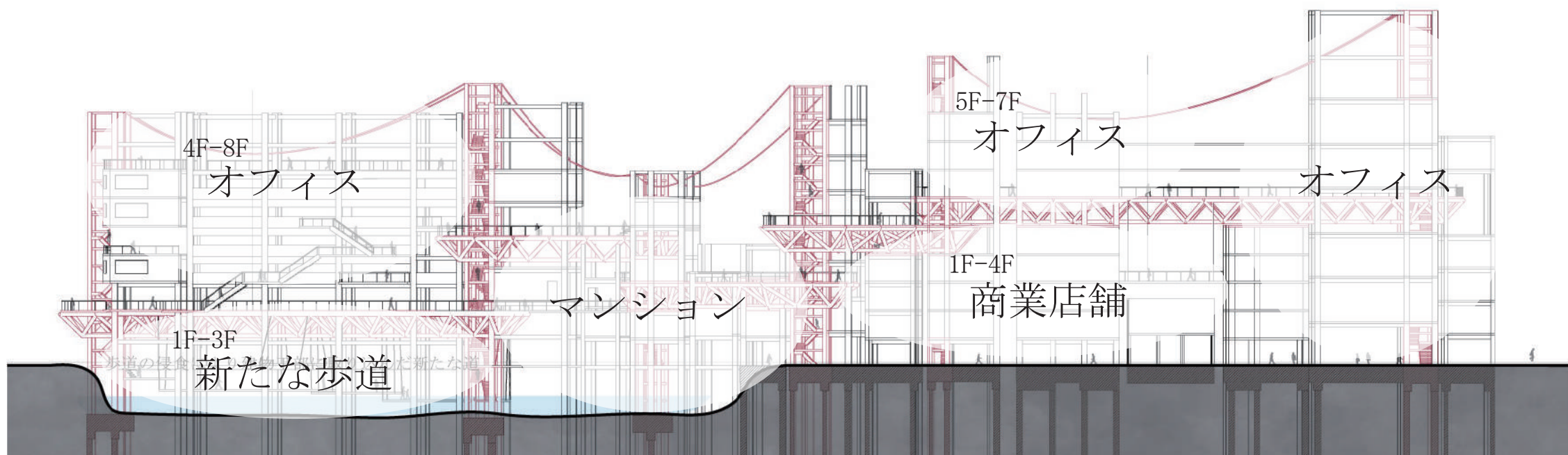
作品名	渋谷川の逆襲	作品番号	4/5
校名氏名	東京理科大学工学部建築学科 景岡志唯		



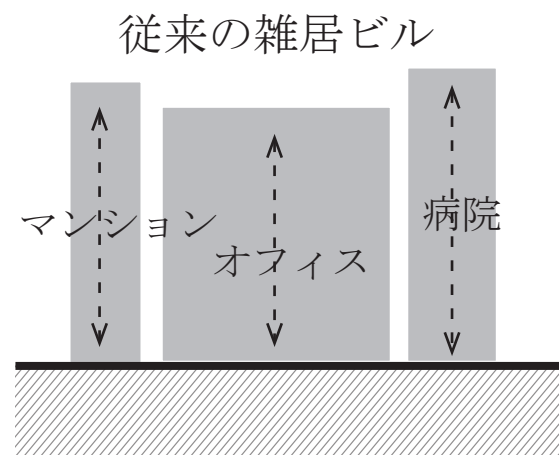
【Floor plan】人間と川の呼応によって空間が構築され、切り取られる



【Section plan】

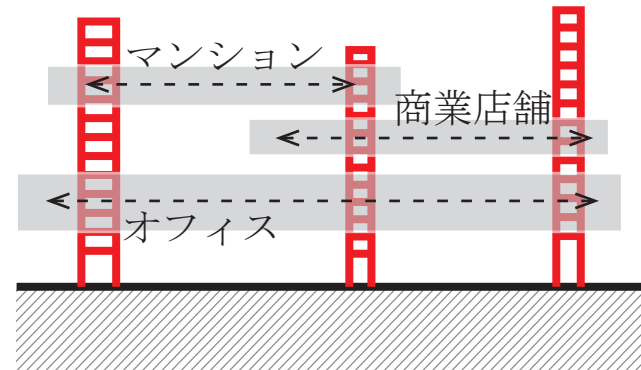


【Effect】



従来のビルは縦に機能が決まっており、建物と建物の間には人間の介入できない隙間が存在

本提案の雑居ビルの変容



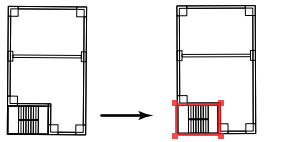
しかし、構造体の補強とともに更新のあり方が変容したことで横で機能が決まる
既存スラブと新規スラブとの間に隙間が生まれる

【Structure】

作品名	渋谷川の逆襲	作品番号	5/5
校名	東京理科大学工学部建築学科		
氏名	景岡志唯		

Structure Core

雑居ビルの外付け階段の4面を鉄骨で補強し新たな構造コアとする



Wire

構造体同士をワイヤーで結び
既存建物や新ボリュームを吊る
既存の躯体が腐食し崩壊した後、
吊橋のケーブルの様な役目も併せ持つ

Mega Structure

構造コアを貫くように挿入した
メガストラクチャー
面の挿入・ボリュームの挿入を可能にする

Suspended Structure

横の移動が可能になる

メガストラクチャーに面の挿入、吊り構造、ラーメン構造で増築したことにより、横軸で機能が決まり
人間層と自然層が決まる

Reduction & Extention

基礎を削られた建物は活動に応じて
高層階から減築

Deposit

川の活動を受け止め、侵食・堆積が起こる

Erosion

川の活動を受け止め、侵食・堆積が起こる

Geology of the ground

地盤面から12mは緩い地盤があり、12mから下には支持地盤がある
このことから横揺れに弱いペンシルビルの基礎は、支持地盤に到達するほどの長さの基礎杭が刺さっていると言える